

## 令和3年度禅文化歴史博物館紀要刊行のご挨拶

駒澤大学禅文化歴史博物館長 村松 哲文（仏教学部教授）

コロナウイルスの世界的な蔓延が収まらない中、当博物館では工夫を凝らした活動をしています。入館人数の制限が行われている最中、博物館の使命は資料の公開ですから、収蔵資料を初めて「Google Arts&Culture」に公開致しました。世界中の名立たる博物館と肩を並べて当館自慢の資料が発信されています。これにより禅文化歴史博物館の収蔵資料が世界中の人々に鑑賞して頂けることになりました。もちろん、「KOMAZAWA」という文字も一緒に発信されています。

また初めてオンラインによる講演会も開催しました。聴衆の前ではなく、カメラの前で話続けるのは勝手が違います。そうした中で、今年度の企画展「良寛展」の監修をしていただいた全国良寛会の会長・小島正芳先生には、大変興味深い講演をしていただき、心より感謝申し上げます。この講演内容は本紀要に収録されております。

また、昨今の若者はテレビより「YouTube」を見ているという実情から、「YouTube」にも禅文化歴史博物館のチャンネルを開設しました。博物館の紹介はもとより、収蔵資料の解説と各種講演会や臘八摂心などのイベントも動画で公開しています。そして、マスコットキャラクターとして「獅子吼」にちなみ「ししくん」をつくりました。年齢を問わず、より多くの皆さんに博物館を知って頂けるように、館員全員でアイデアを出して誕生した、私たちの相棒です。

そもそも博物館は、貴重な実物資料をその場で見る事ができるという特徴があります。しかし、何らかの理由で博物館に来られない人達には少なからずいらっしやいます。そうした不便さを解決できるのがオンラインによる展示、サイバーミュージアムです。私が学生の頃は想像もできなかったことですが、現代はそのような時代になっているのです。実は、オンランによる展示は少し前から行われていましたが、なかなか踏み出すことができませんでした。それをコロナウイルスの蔓延というきっかけで実現できたのです。勿怪の幸いとでもいえるでしょうか。今や博物館は、所在する地域のみならず、日本を超えて世界に発信する存在です。禅文化歴史博物館も、いつでもどこでも、世界中の人々に収蔵資料を観て頂けるように日夜工夫を凝らした活動をしていきたいと思っております。